

タイトル「令和6年度(第62回)神奈川県立高等学校PTA連合会 県西地区大会」

講演者 小松 由佳

フォトグラファー・元登山家

学校名 神奈川県立小田原東高等学校PTA

講演テーマ「共に生きる」

## 1 はじめに

フォトグラファーの小松由佳です。私は、日本人女性初のK2登頂に成功し、その後風土に根ざした人間の暮らしに惹かれてフォトグラファーになりました。今日のテーマ「共に生きる」として、前半はK2登頂、後半は風土に根ざした人間の暮らし、シリア難民についてお話をいたします。

## 2 K2登頂

私の大学進学のための目的は、登山をすることでした。高校生の時から登山に目覚め、東海大学で山岳部に入部しました。後日知ったことですが、同部は当時女子の入部が禁じられていましたが、結果として、山岳部で登山中心の学生生活を楽しむことができました。さて、K2との出会いですが、東海大学山岳部創部50年記念事業として、2006年に登頂の機会を得ることができました。登頂に成功するまでには、沢山の困難と犠牲が伴いました。登頂するにはまず麓まで行き、そこからは一步一步自力で山頂を目指して歩いて行きます。

ヒマラヤのK2は標高8,611mあり、富士山の標高3,776mの2倍強あります。空気は薄く、酸素ボンベを携行しなければなりません。体を低酸素に慣らすために、相当の日数を掛けて登頂します。下山までに必要な食糧だけでもかなりの重量になりますが、酸素ボンベなど登頂に必要な資材も人力で運ばなければなりません。登山隊では、一頭のヤギを連れて行きました。私はそのヤギに「ユキ」とちゃんと名付け、可愛がりましたが、ユキちゃんを連れていく目的は、運搬手段ではなくユキちゃんの命が必要だったのです。冷蔵設備などない登山隊に、新鮮な食糧を運搬するには限りがあります。登山隊が生きて下山するには、その命が必要でした。登山隊一人一人の命だけでなく、多くの困難や犠牲の上に成功することが出来まし

た。

## 3 シリア難民

2011年以降、シリアでは内戦が続いています。空爆等による死者50万人、国内外の避難民1,220万人となり、当時の国民の半数以上に被害が及んでいます。私の夫ラドワンは、2012年に徴兵され、シリア政府軍の一兵士となりました。民主化運動に加担した罪で指名手配になった義兄サーメルは逮捕され、以来12年間行方不明で生死も分かりません。同じく指名手配となった義兄ジャマールはシリアを脱出しました。夫は、義母の懇願で脱走兵となり国外に脱出します。義母は、「①政府軍にいればシリア国内の民主化運動を弾圧しなければならない、②国外に逃亡すれば生きられる。生きていれば、いつかきっと会える。」と夫を説得しました。その後難民となった夫と再会し、2児を授かりました。

夫の故郷であるパルミラも、激しい空爆を受けて大部分が破壊され、家族のほとんどがトルコに逃れて難民となりました。難民となった人々は、いつか故郷に帰ることができる日を夢見て、異郷での生活再建を試みています。当たり前のように存在していたシリアでの日常が、いかに短期間に失われていったかを経験した夫は、平和な状態を維持する努力なくして、平和は維持できないと話しています。国や民族という垣根を超えた取組・価値観の共有が求められています。シリアの人々がかつて手にしていた満たされた日常に、やがて彼らが戻っていくことを願って、私は彼らの姿を写真家として伝えていきます。